

クレジットカード

再点検!

クレジットカードを上手に活用するための基礎知識

普段使いになつてきたクレジットカード

以前はちょっと高額な買い物や海外旅行のお供にクレジットカードが使われていましたが、最近では公共料金の引き落としから、スーパー、コンビニ、ドラッグストアでの支払いなど、とても身近にクレジットカードが使われるようになってきました。

例えば、大手カード会社が実施したある標本調査を見ると、ここ数年のクレジットカードの保有率は8割程度で横ばいとなっている一方で、カード利用額は毎年少しずつ伸びてい

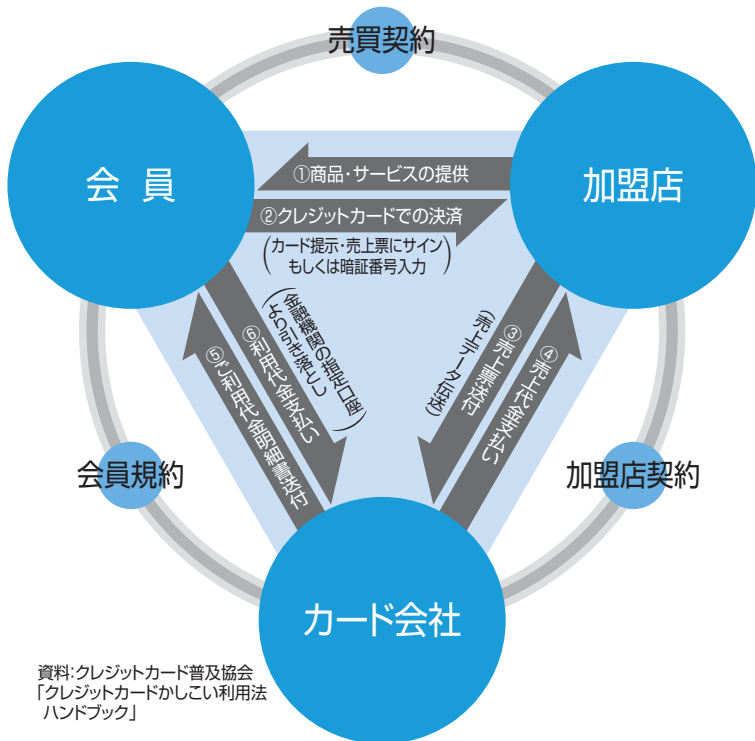
ます。さらに、そのうち一つの調査から1回当たりのカード決済額を見ると、こちらは逆にここ数年、減少傾向にあります。こうした調査結果から、少額の買い物でもカードを利用する人が増え、それが、1人当たりのカード利用合計額のアップにつながっていると推察できます。

*JCB

「クレジットカードに関する総合調査2009年度版」
 ●調査地域／北海道・東京・神奈川・千葉・埼玉・愛知・大阪・兵庫・京都・福岡 ●調査対象者／20歳～69歳 ●回答数／25,500人

三菱UFJニコス
 「第14回クレジットカードについての消費者調査」
 ●調査実施時期／2005年 ●調査地域／首都圏と京阪神圏 ●調査対象者／20歳～69歳 ●回答数／8,558人

●クレジットカードでの買い物の仕組み



資料:クレジットカード普及協会「クレジットカードかしい利用法ハンドブック」

●執筆者
 ファイナンシャル・プランナー
 八ツ井慶子

やつい・けいこ
 家計の見直し相談センター(東京)の相談員。「わかりやすく」をモットーに、相談業務をはじめ、企業や行政でのセミナー、雑誌・書籍などへの執筆を行う。著書に『お金ストレスを家計簿なしで解消する本』『よくわかる最新金融の常識と仕組み』など。

クレジットカードの仕組みとは？

これだけ身近になったクレジットカード。そこで改めてクレジットカードでの買い物の仕組みをおさらいしておきましょう。

例えば、クレジットカードを利用して、デパートで1万円の靴を購入

したとします。利用者はレジでカードを提示し、決済を済ませ、靴を受け取りますね。しばらく経って、カード会社から利用者へ1万円の請求が来るわけです。その間、デパートとカード会社ではどのようなやりとりがされるのでしょうか。

利用者が靴を購入した後、デパートは、靴の代金をカード会社に請求

します。請求を受けたカード会社は、利用者に代わって代金を支払います。が、このとき支払うのは1万円から手数料を差し引いた額です。その後、カード会社は利用者へ1万円を請求します。口座引落等により、カード会社に1万円が支払われれば、これで買い物は完結です。

この仕組みから分かるように、カード会社の売り上げは、利用者から受け取る1万円とデパートに支払う金額との差額となります。デパートとしては、こうした手数料を負担してまでも、商品が売れるチャンスが広がることにメリットがあるわけです。利用者も、手元に現金がなくてもすぐに商品が手に入りますから、メリットは大きいですよ。

支払い方法はいろいろ

利用者は、通常買い物の都度、カード会社に対する支払い方法を選ぶことができます。一般に手数料の負担なく利用できるのが、一括払いや2回払い、ボーナス一括払いです。

先ほどの靴の例で言えば、1万円を翌月に1回で支払うか、5000円ずつ2回に分けて支払うか、あるいはボーナス時期に一括で支払うか、といった具合です。

「分割払い」とは、一般に手数料

のかかる3回以上の支払いを言い、カードによって異なりますが、おおよそ年率10〜15%程度の手数料がかかります。

さらに、利用額にかかわらず、月々の返済金額を原則一定とする「リボルビング払い(定額方式)」という方法もあります。リボルビング払いと言っても、厳密にはどれも同じわけではありませんが、一般的な例で言うと、例えば、10万円のスーツを購入し、月1万円ずつ支払っていくリボルビング払いを選択したとしましょう。手数料負担が生じるので返済回数は11回です(11回目の返済額は端数)。もし、全額返済し終えないうちに、新たにリボルビング払いで買い物をすると、月1万円の返済額は変わらずに、返済回数が延びることで調整されます。無計画に買い物をしてしまうと、いつまで経っても返済が終わらず、その間しっかりと手数料負担が生じるので注意が必要です。

いずれにしても、カード会社が利用者へ代わって、一旦支払いを立て替えてくれる仕組みであることはお分かりいただけるでしょう。これは、カード会社と利用者との間における「信用」によって成り立つ経済行為です。「クレジット」はまさに信用という意味ですから、分かりやすい

主な支払い方法のメリット・デメリット

支払回数	支払方法	メリット	デメリット
1回	一括払い	<ul style="list-style-type: none"> 手数料負担がない 商品購入時と支払い(カード会社からの請求)までの時間差が最も短いので、資金管理が比較的行きやすい 使えるお店が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 支払いまでの猶予期間が短い 使いすぎると、一気に多額の支払い請求がやってくる
	ボーナス一括払い	<ul style="list-style-type: none"> 手数料負担がない 利用月によっては支払いまでかなり猶予期間がある 	<ul style="list-style-type: none"> 多用すると、支払時の負担金額が大きくなる 加盟店によって使えないことがある 利用できない時期がある
複数回	2回払い	<ul style="list-style-type: none"> 手数料負担がない 一括払いに比べて、支払いに余裕が持てる 	<ul style="list-style-type: none"> 多用すると、どの支払いが完了して、どの支払いが完了していないのかが分かりにくくなっていく 少額決済の場合、使えないことが多い
	分割払い(3回以上)	<ul style="list-style-type: none"> まとまったお金がなくても商品購入できる (金融機関の個人ローンの申し込みなどに比べると)簡単に利用できる 	<ul style="list-style-type: none"> 手数料が、金融機関の個人向けフリーローンよりも少し高めである 多用すると、手数料負担がかさむ
	リボルビング払い(定額方式) ※	<ul style="list-style-type: none"> まとまったお金がなくても商品購入できる (金融機関の個人ローンの申し込みなどに比べると)簡単に利用できる リボルビング払いを選択することで、ポイントが通常よりも多く付与されるものもある 	<ul style="list-style-type: none"> 完済する前に、リボルビング払いで追加のカード利用があると、いつまでたっても返済が終わらない 一般に、分割払いよりも手数料水準が高い

※一定額ではないタイプや、定率方式のリボルビング払いもある

ですね。従って、カード発行を申し込む際には、その人の「信用調査」「属性審査」などが行われます。簡単に言うと、きちんと支払い能力があるかどうかの見極めです。

また、無尽蔵にいくらでも利用できるわけではなく、1カ月当たりの「限度額」が設けられるのが一般的で、カード利用により信用の実績ができる、増額されたりもします。

クレジットカードの種類

では実際、どのようなクレジットカードの種類があるのでしょうか。いろいろな分け方がありますが、その発行元で考えてみましょう。銀行や銀行の系列会社が発行する「銀行系」、信販会社が発行する「信販系」、販売促進や顧客の囲い込みを目的としてデパートやスーパーなどが発行する「流通系」、流通系と同様に顧客の囲い込みや製品の販売促進を図る目的で発行される「メーカー系」、ガソリンスタンドでの値引きや固定客狙いの石油会社が発行する「石油系」などが挙げられます。

選べばよいのでしょうか。冒頭ご紹介した調査結果を思い出してください。利用頻度が上がり、1回当たりのカード利用額は下がっている傾向でした。これには、実はカード機能の一つ「ポイント制度」が一役買っています。

ポイント制度では、発行元が自社製品やサービスの購入時にカードを利用することで、一定のポイントを利用者に付与します。次回以降の購入時に付与されているポイント分の割引を行うといった還元性を持たせ、顧客をリピートユーザーに育て上げる囲い込み戦略の一つとして、各社力を入れている制度です。現在では企業や業種の枠を超え、複数の企業同士で「ポイント提携」もなされており、その広がりや勢いを見せています。今、普通預金金利はだいたい0.2%程度で推移していますが、ポイントが0.5〜1%相当付くカードもあります。しかも預金金利は付与されるのに1年かかり、2割の税金も取られますが、ポイント還元はそうだったことはありません。実質はその差により高金利と言えます。カード会社の実

選び方のポイント

理由に「ポイントがあるから」との回答が上位を占める傾向がここ数年続いています。

こうしたポイント制度を活用してもらうため、企業側はカードを利用できる場を増やしていますし、利用者側は支払いを先延ばしにするメリットよりも、ポイント獲得のため、少額から積極的にカードを利用するように努めているようです。

となると、やみくもにクレジットカードを選ぶより、より効果の期待できる選び方をしたいですね。そこで、カード選びのステップを考えてみました。

1 よく利用するお店のポイント制度をチェック

スーパー、デパート、ガソリンスタンド、ネットショップなど、クレジットカードが使える場所は増えました。日ごろよく利用するお店や利用額の高いお店にポイント制度はないか確認してみましよう。ここでは、どれか一つに絞る必要はありません。とにかく比較材料となる選択肢を挙げていきましょう。

2 ポイント還元条件をチェック

「100円で1ポイント、1ポイント1円換算」であれば、実質1%引きの買い物ですが、「200円で

1ポイント、1ポイント11円換算」であれば、その半分です。ちよつとややこしいですが、いくらの買い物でいくら還元されるのか確認したいところです。また、ポイント還元する際には、「500ポイント以上」など制限があったりするので、この点も併せて確認しましょう。

3 ほかのお店でポイント獲得が可能かどうかチェック

そのお店のみならず、まったく別のお店の買い物でもポイントがたまったり、あるいはポイント交換できるものもあります。よく利用するお店がラインナップとして複数あれば、より効率よくポイントがためられます。

4 入会費・年会費をチェック

ここはとてつ大事です。いくらポイントが高くて、せつかくたまつたポイントが年会費と同額であれば、まったく意味はありません。年会費無料というカードも豊富にあるので、そうしたカードを中心に検討するといひでしょう。しかし、よく利用するお店であれば、会費を支払ってでも、それ以上のメリットが期待できるかも。冷静に試算してみてください。

5 独自サービス等のチェック

ポイントのみならず、そのお店独

自の割引サービスや提携企業での特典など、オリジナルのサービスもチェックしておきましょう。国内外の旅行保険などは、あると便利なものです。

す。自分の消費行動から、よく使うカードを厳選しましょう。

資金管理の考え方

お気に入りのクレジットカードに出会えたら、後は快適に付き合っていきたいもの。しかし、意外と難しいのがその資金管理ではないでしょうか。

6 今持っているクレジットカードも総点検
1～5と同じステップを、今すでに持っているカードでも行いましょう。よりよいカードはないか再確認するのはもちろんのこと、ポイント獲得を考慮した場合に、カードが分散してしまっていては効率が悪いもので

クレジットカードの仕組みの基礎は、先ほど触れましたように「立替払い」で、いわば借金をしていることと同じです。そのため、よくも悪く

も商品を購入する時点と、実際にその代金を支払う時点の間には時間差が生じます。商品購入時、目の前のお金が減っていないため、利用額を意識していないと、つい使いすぎということになりかねません。カード会社からの請求書を見て慌ててしまった、という経験はカード利用者であれば、一度はあるのではないのでしょうか。かく言う私もその1人。今後ますます少額決済が増え、クレジットカードの利用頻度が高まれば、クレジットカードの資金管理は家計管理の鍵を握るといっても言い過ぎではないでしょう。

そこで、クレジットカードの利用に関しては、徹底した「発生主義」による資金管理をおすすめします。発生主義とは会計用語なのですが、この場合、カードを利用したと同時に、目の前で意識できる資金の残高を減らすことで時間差をなくそうとする資金管理方法を言います。何だか分かりづらいですね。具体的に考えてみましょう。

例えば、毎月の家計費を現金で管理している場合、クレジットカードを利用したら、その利用額をすぐにカードの引落口座に入金してしまいます。これで目の前の残高は減り、「使った」という実感が持てます。また、銀行口座について、通常の生活

資金の出し入れを行うための「生活費口座」とは別に、カード引き落とし専用の口座を作成することも有効です。生活費を現金管理している方にも便利だと思えます。

ただし、カード利用の都度、その「専用口座」へ預け替えをATMなどで行うのは面倒なものです。そこで私が活用しているのはインターネットバンキングです。給与振り込み口座と同じ金融機関にカード引き落とし専用の口座を設け、インターネットバンキングを申し込みます(一部の金融機関では複数の口座は作成できません)。自分名義の口座間における資金移動は、通常手数料はかかりません。ご自分でパソコンから資金移動の操作をする必要がありますが、1円単位で簡単に操作可能です。メインの口座の残高はカード利用ごとに減っていくので、使いすぎも防げます。頻繁にカードを利用するのであれば、1週間に1度というように定期的に行う方法でもいいでしょう。

もちろん、資金管理手法はほかにもあるでしょう。大切なことは、カードを利用したと同時に目の前で意識できる資金残高もきちんと減らし、目に見えて「使った」と実感できることです。正解は一つではないので、ぜひ試行錯誤してみてください。

カード選びのポイント

1 よく利用するお店のポイント制度をチェック

2 ポイント還元の条件をチェック

3 ほかのお店でポイント獲得が可能かどうかチェック

4 入会費・年会費をチェック

5 独自サービス等のチェック

6 今持っているクレジットカードも総点検

こんなところにご用心

いずれにしても、発生主義。これだけはしっかり肝に銘じましょう。

もしカードを盗難されたり紛失

してしまったり、他人に悪用される心配があります。カードがないと気が付いたら、すぐにカード利用停止してもらおうようカード会社に連絡

しなければなりません。通常、24時間体制で受け付けてくれます。従ってよく利用するカード会社の連絡先は携帯電話に登録しておいたり、手帳に書いておいたりしておくこと安心です。

電話口では、本人確認のため名前や住所、電話番号、そして生年月日といった質問があります。気を付けないのは住所。住所変更を怠って

いて、旧住所や登録電話番号を答えられないと手間取ります。名前と生年月日が分かれば原則対応してくれますが、変更届は日ごろからしっかり行っておくとよりよいでしょう。

さらにカードの利用被害というところ、スキミングが挙げられます。スキミングとはカード情報が盗まれることです。盗まれるのはあくまで情報であって、カードではありません。その

ため、なかなか犯罪に気付かないのが難点です。身に覚えのない架空の請求が来て初めて分かることがほとんどのようなのです。ただし、犯罪被害と認められれば、支払いは全額補償されます。

クレジットカードには、これまでのような磁気タイプとICカードタイプがあり、後者の方がセキュリティは高くなっています。いずれか選べる場合は、ICカードを選択するのも自己防衛の一つでしょう。とはいえ、絶対安心ということはありませんので、毎月の請求書にはきちんと目を通し、間違いがないか確認することを習慣付けましょう。

クレジットカード利用上の注意点

サインをする

新しいクレジットカードを手にしたら、まず最初にカード裏面の所定欄にサインしましょう。このサインは、加盟店で利用する際、本人であることを証明するもので、盗難・紛失の際のトラブル防止にも役立ちます。サインがないと、カードが不正使用された場合も損害額が補償されません。

カードを貸さない

クレジットカードは、厳密に言うとカード会社から本人名義で「借りている」ものです。そのため、他人はもちろん、家族に貸すことも契約違反となります。もし、借りて使った人がお金を払ってくれなくても、支払いはカード保有者の負担となるので注意してください。

利用伝票はしっかり保管&きちんと処分

クレジットカードの利用伝票の控えは大切に保管し、後日カード会社から送付される明細書との照合を忘れないようにしましょう。また、利用伝票の控えを第三者に拾われ、カード番号や有効期限を不正に使用される事件が発生しています。公共の場のゴミ箱などに捨てたりせず、きちんと自分で処分しましょう。

暗証番号は他人に知らせない

クレジットカードには、不正使用(他人使用)を防ぐため、事前に登録しておく数字4桁の暗証番号があります。この暗証番号は絶対に他人に知らせるはいけません。また、暗証番号を記入したメモとクレジットカードを一緒にしておいたり、生年月日や電話番号など他人推測されやすい番号を暗証番号にするのは危険なので避けましょう。

紛失したらすぐ連絡を

カードを紛失したら、すぐにカード会社に連絡しましょう。ただちに利用停止手続きを取ることで、以後の不正使用を防ぐことができます。同時に、最寄りの警察に紛失届けを出すことを忘れずに。

便利なツールとして利用するために

便利なクレジットカードですが、その裏側では、使いすぎないようにきちんとした資金管理が求められますし、カード被害に巻き込まれないよう自己防衛も必要です。

安心で快適に、そして真に便利なツールとしてクレジットカードと付き合っていたきたいと思えます。